

平成生まれの若い表現者たちが、「天皇」という日本と日本人の根源に関わる問題に真面目に取り組んでいることに敬意を表します。映画のラインナップも考え抜かれたものです。1人でも多くの人が、会場のユーロスペースに足をはこんでいただきたいです。私も会場で映画を鑑賞した後で、映画を愛する若い人たちと率直な意見交換をしたいと思っています。

厳肅で重厚感漂うラインナップ。この中で何か観た作品がありますが、どれも日本人の心の琴線に触れる名作でした。タイトルのリストを読んでいるだけでも胸が熱くなって泣けてきます。劇場で観ればたぶんただではすまない、号泣の予感がします。

今は言論の自由が保証されているのにも関わらず、天皇のことについては触れにくくなっている。だからこそ、若い人達が天皇について考え、このように映画祭を開催していることにはとても意味がある。また、上映作品についても、今では製作されないような映画ばかりで素晴らしい。

この国のかつての頂点は中心でもあり、多くの人がその名を呼びながら無残に死んでいった。今は憲法一条で国と国民統合の象徴と規定されながら、メディアにおいては最大のタブーとなっている。頂点ではないが国の中心にいる。しかしロラン・バルト言うところの空虚な中心だ。描かないわけにはゆかない。ところが表現は規制される。あるいは委縮する。その抗いの記録を目撃してほしい。

佐藤 優

(作家・元外務省主任分析官)

辛酸なめ子

(漫画家・コラムニスト)

鈴木邦男

(一水会 元代表)

森 達也

(作家・映画監督・明治大学特任教授)

schedule	10:30	13:10	15:30	18:10
12/9<土>	明治天皇と日露大戦争 (113分) ★田島良一 (日本大学芸術学部映画学教授)	インペリアル戦争のつくり方 (73分) ★金子遊監督	太陽 (110分) 上映前解説 渡辺祥子さん (映画評論家)	天皇と軍隊 (90分) ★渡辺謙一監督 (予定)
/10<日>	戦ふ兵隊/日本の悲劇 (105分)	日本春歌考 (103分) ★樋口尚文さん (映画監督・映画評論家)	11.25 自決の日 (119分) ★鈴木邦男さん (一水会 元代表)	新しい神様 (99分) ★土屋豊監督
/11<月>	孤獨の人 [記録映像 併映] (96分)	インペリアル戦争のつくり方 (73分)	日本敗れず (102分)	ゆきゆきて、神軍 (122分) ★原一男監督
/12<火>	明治天皇と日露大戦争 (113分)	拜啓天皇陛下様 (99分)	戦ふ兵隊/日本の悲劇 (105分) ★阿部隆さん (日本ドキュメントフィルム代表・プロデューサー)	軍旗はためく下に (97分) ★佐藤優さん (作家・元外務省主任分析官)
/13<水>	11.25 自決の日 (119分)	天皇と軍隊 (90分)	太陽 (110分)	拜啓天皇陛下様 (99分)
/14<木>	日本敗れず (102分)	日本春歌考 (103分)	ゆきゆきて、神軍 (122分)	日本のいちばん長い日 (157分)
/15<金>	新しい神様 (99分)	日本のいちばん長い日 (157分) ★半藤一利さん(作家) (予定)	軍旗はためく下に (97分)	孤獨の人 [記録映像 併映] (96分)

前売券:1回券=(一般・学生ともに) ¥800 | 3回券=¥2,100
当日券:1回券= 一般 ¥1,200 | 学生 ¥1,000 | 3回券=¥2,700
各回入替制・全席指定席

- *開場はそれぞれ上映開始10~15分前です
- *連日10:00より当日券の販売を開始します。ただし、15日(金)のみ9:30より当日券の販売を開始します。(現金でのみご購入が可能です)
- *ユーロスペース劇場HPでは3日前から各回開始1時間前まで座席指定券が購入できます(各種クレジットカードのみ。詳しくはユーロスペース劇場HPをご確認ください)
- *前売券は3日前より劇場窓口にて座席指定券とお引き換えできます。オンラインでのご利用はできません
- *やむを得ない事情により作品、上映素材、及び上映時間が変更になる場合がございます
- *製作から長い年月が経っているため、お見苦しい箇所やお聞き苦しい箇所がございます
- *トークショーは変更、中止となる場合がございます
- *開館は通常、一番早い上映回の30分前です。混雑状況等により早まる場合がございます

2017.12.9<土> 15<金>

渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 3F
ユーロスペース EUROSPACE
03(3461)0211
http://www.eurospace.co.jp



「主催」 日本大学芸術学部映画学科映像表現・理論コース映画ビジネスセミナーロース
「上映協力」 きょうくひとクックワークス・幻視社 国際放映株式会社 疾走プロダクション 日活株式会社
スローリーナー 東京国立近代美術館フィルムセンター 東宝株式会社 日活株式会社 松竹株式会社
日本ドキュメントフィルム 若松プロダクション The Works International W-TJ OFFICE

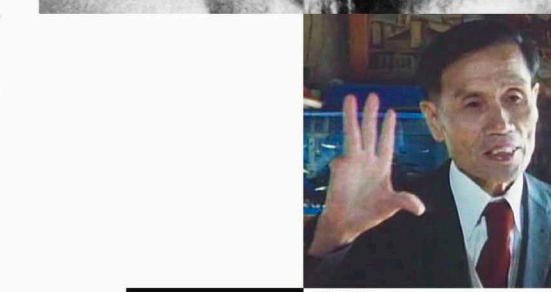


@nua_eigasai2017 www.fb.com/nichigei.eigasai
nichigei-eigasai.com

ユーロスペース EUROSPACE

2017.12.9<土> 15<金>

映画と天皇



現役 日藝生に よる



©若松プロダクション



1939 『戦ふ兵隊』／『日本の悲劇』

かつて上映禁止となった亀井文夫のドキュメンタリー2作品の併映。『戦ふ兵隊』は軍部による戦意高揚を目的に製作されたが、その内実は反戦映画であり上映不可とされ幻のフィルムに。戦後、製作された『日本の悲劇』は、戦争責任の所在を具体的な人名を挙げながら明らかにする問題作。昭和天皇が軍服から背広姿へオーバーラップするという意味深長なシーンにより上映許可取り消しとなる。タブーに屈せず戦争と天皇に真っ向から向き合った2作品。
監督：亀井文夫
日本|モノクロ|16mm|66分/39分



1954 『日本敗れず』

終戦間際、無条件降伏受諾を許さんとする陸軍将校たちが起こしたクーデター事件「宮城事件」を『日本の一番長い日』(1967)よりも13年早く取り上げた。度重なる空襲や迫る本土決戦を前に、降伏か徹底抗戦か揺れる政府と軍部。早川雪洲が陸軍大臣を演じ、玉音放送の録音盤を奪わんと決起する若い将校は丹波哲郎、宇津井健ら。監督の阿部豊はハリウッドで学び無声映画から活躍したベテランで、戦時中は国策映画を多く手掛けた。
監督：阿部豊 日本|モノクロ|Blu-ray|102分



1957 『孤獨の人』

皇太子(現天皇)と御学友の学生時代を描く。学生らしい遊びを殿下に知ってもらおうとある事を計画する御学友たち。実際に起きた「銀ブラ事件」を中心に皇太子の日常を描く珍しい作品。併映作品『攝政宮殿下活動写真展覧會御台覧実況』と『史劇 楠公訣別』は1921年の活動写真展覧会に行啓中の当時20歳の摂政宮(後の昭和天皇)の前で尾上松之助が「桜井の別れ」を演じる記録映像(監督不詳)。フィルムセンター所蔵35mmプリントを24コマ/秒で上映。併映作品から上映(2分/12分)。
監督：西河克己 日本|モノクロ|16mm|82分



1957 『明治天皇と日露大戦争』

日露交渉から日本海海戦に至る日露戦争の変遷を明治天皇の眼差しを交えながら辿る歴史ドラマ。1904年、ロシア帝国は南下政策を進めていた。迫りくる大国の影に対し、高まる日本国内での開戦気運。一方、国民の生命を案じる明治天皇は、開戦を憂いていたのだが…。明治天皇を登場人物に据えるというタブーに踏み込んだ作品。新東宝時代劇の嵐寛寿郎が明治天皇を演じる。公開当時「全国民が一人残らず見る映画」と謳われ大ヒットした。
監督：渡辺邦男 日本|Blu-ray|カラー|113分



1963 『拝啓天皇陛下様』

天皇を愛する純真無垢な男の半生をコミカルに描く優しく切ない戦争喜劇。幼いころに両親を亡くし、前科者として職に就けずにいた山田正助にとって、3度の飯にありつける軍隊の生活はまさに天国だった。ある日の演習中、視察に訪れた天皇を一目惚れした山田は、天皇に手紙を書く男はつらいよ…。名匠野村芳太郎監督が生んだ『男はつらいよ』以前の渾美清の代表作。翌年には、続編『続・拝啓天皇陛下様』が公開。共演は長門裕之、藤山寛美ほか。
監督：野村芳太郎 1963|日本|カラー|35mm|99分



1967 『日本春歌考』

大学受験のために上京した中村豊明は、試験場でベトナム戦争反対の署名をしていた受験番号469番の女子生徒に強烈に惹かれる。中村ら四人の男子生徒は空想で469番を犯す。彼らの性的欲求が頂点に達したとき、語られるメッセージとは。劇中、天皇家の紀元節にまつわるタブーへの言及が登場。春歌や軍歌、フォークソングが飛び交う本作は、大島渚による異色の青春ミュージカル映画と言っても過言でないだろう。若き伊丹十三と宮本信子が共演。
監督：大島渚 日本|カラー|35mm|103分



1967 『日本のいちばん長い日』

大宅壮一編の原作(後に半藤一利著と表記)による史実に基づいた歴史大作。第二次世界大戦末期の1945年夏、日本は極めて不利な戦局に陥り、連合国側から無条件降伏を迫られていた。8月14日、御前会議の末、昭和天皇はポツダム宣言受諾を決定、翌15日正午に終戦を知らせる玉音放送を流すことに。しかし、その決定に反発していた陸軍の青年将校達は蜂起する。東宝創立35周年記念作品の一つであり、2015年には原田真人監督によりリメイクもされた。
監督：岡本喜八 日本|モノクロ|35mm|157分

映画における天皇とは、国父や象徴といった観念的な存在ではなく、スクリーンの中の被写体として実際に映し出される。その姿は、これまでの天皇制や日本という国についての抽象的な議論とは違い、二つの具体性を持った実像として現れる。その時、私たち学生には、天皇制に関する議論が、より身近な問題として感じられた。平成が終わる前に、観客やトークゲストと共にじっくり「天皇」について考えること。それは、私たちの現在、そして明日についての考えを巡らせることでもあるだろう。
(映画祭企画学生一同)

『太陽』(2005)ではイッセー尾形がそれまでにない昭和天皇像を見せ、『孤獨の人』(1957)は現天皇の皇太子時代の学生生活や実際に起きた「銀ブラ事件」が題材とされ、天皇の人間性やその苦悩に触れる。
一方で『ゆきゆきて、神軍』(1987)や『軍旗はためく下に』(1972)などの作品は、天皇制や天皇という存在そのものに疑問を呈し、戦後社会の中で忌避されてきた戦争とその責任の所在について鋭く追求する。

今年で7回目となる日藝生企画・運営の映画祭のテーマは「映画と天皇」。
昨年8月、天皇陛下が生前退位の意向を表明された。その報道は連日のように人々の話題となり、様々な議論を巻き起こした。平成生まれの私たち映画祭メンバーにとって、「自分たちの生まれた時代が終わるかもしれない」という事実は、かつてないほどの切実さを伴って迫り、同時に、映画を学ぶ私たちにも天皇という存在や日本という国について考えるきっかけとなった。眞子さまの婚約報道もあった。象徴天皇制を含む日本国憲法が施行されて70年、映画はどのように天皇を描き続けたか。そこには天皇というデリケートな存在と真摯に向き合い、ときに暴こうとする映画人の姿があった。

今年で7回目となる日藝生企画・運営の映画祭のテーマは「映画と天皇」。



1972 『軍旗はためく下に』

『仁義なき戦い』直前の深作欣二が、自ら原作権を獲得し、劇映画化した意欲作。戦地での夫の死が、敵前逃亡の罪による銃殺刑であったと知らされた妻はかつての夫の戦友や上官を訪ね、死の真相を追求してゆく。次第に明らかにされるニューギニア戦線の惨劇。そして背後に浮かび上がる天皇の存在。戦没者遺族や帰還兵問題といった戦後社会が忌避してきた太平洋戦争の暗部を、昭和天皇の記録映像の引用などの直接表現を通じて、鋭く切り込む。
監督：深作欣二 日本|カラー|35mm|97分

日本のすがたが見えてくる。



1987 『ゆきゆきて、神軍』

自らを「神軍平等兵」と称し、天皇の戦争責任を追及する元日本兵、奥崎謙三に迫ったドキュメンタリー。旧日本軍の自分の部隊で部下射殺事件が起きたことを知った奥崎。戦後、その場にいた兵士達を訪ね、時に暴力を振るいつつ、真相を究明していく。彼の「正義の糾弾」は加速してゆき、やがて戦争の悲惨な真実を暴き出す。そして、映画は衝撃の結末を迎える。日本映画監督協会新人賞、ベルリン映画祭カリガリ映画賞など多くの賞を受賞。
監督：原一男 日本|カラー|35mm|122分



1999 『新しい神様』

右翼的なパンクバンドで活躍する雨宮処凛と伊藤秀人。天皇を崇め、心の拠り所とする2人と、左翼思想を持つ監督、土屋豊の交流を描いたドキュメンタリー作品。雨宮は渡されたカメラを持ち、自らを撮影する。右翼団体での活動や北朝鮮に行き会った元赤軍派ど号グループとの交流。自分の存在価値を常に模索し続ける彼女が自立へと向かう姿が映し出される。山形国際ドキュメンタリー映画祭・国際批評家連盟賞特別メンション受賞。
監督：土屋豊 日本|カラー|Blu-ray|99分



2005 『太陽』

天皇を“人間”として捉え、内面にまで踏み込み、外国人監督の視点からその存在を見つめ直した異色作。終戦直前の御前会議において昭和天皇は降伏と徹底抗戦の意見の間で葛藤を続ける。そんな緊迫した状況と並行してこれまで日本映画では表現されることのなかった天皇の日常と生活がユーモアを交えながら描き出される。国内での上映権が終了しており、イギリスの権利元との交渉の末、上映が実現した本映画祭必見の作品。
監督：アレクサンドル・ソクーロフ
ロシア・イタリア・フランス・スイス|カラー|35mm|110分



2009 『天皇と軍隊』

天皇と憲法を、戦後日本史から多角的に見つめ直すフランス製作ドキュメンタリー作品。戦後、タブーとして不明瞭にされてきた天皇制。記録映像の引用と、鈴木邦男、田英夫、ジョン・ダワーら幅広い論客たちへのインタビューを中心に、近現代から平成の今日まで、日本が抱えてきた問題をマクロな視点で俯瞰する。海外向けであるため、内容的に理解しやすく、同時に一定の深度が保たれており、天皇制を考える上での入門編とも言える作品。
監督：渡辺謙一 フランス|カラー|Blu-ray|90分



2012 『11.25自決の日 三島由紀夫と若者たち』

神格化された天皇を信じ、皇国再建を訴え切腹自殺した三島由紀夫。敗戦後、突如平和な国へと向かい出した日本への不信や怒りを胸に三島は若者に訴えかける。「お前が信じるものは何だ」とともに切腹した楯の会会長・森田必勝と三島の交流を主軸に、かつての日本を愛し、取り戻そうとした者たちの闘いを追う。映画による革命を目指した若松孝二が描く三島像が興味深い。第65回カンヌ国際映画祭ある視点部門正式招待作品。
監督：若松孝二 日本|カラー|DCP|119分



2014 『インペリアル 戦争のつくり方』

2045年、第三次世界大戦が勃発していた。戦争のなか生き残った一人の女は、歴史を見つめ直す。平和を願った日本人は、なぜ再び戦争を始めてしまったのか。写真家、福島菊次郎の『天皇の親衛隊』の写真や過去のニュース映像なども踏まえ、日本の過去と現在、未来が映し出される。異なる時代の、戦争・憲法・国家・天皇の姿とは。1974年生まれの子遊監督が「想像力を膨らませるきっかけになれば」と思いを込めたSFドキュメンタリー。
監督：金子遊 日本|カラー|Blu-ray|73分

映画と天皇